



新年のごあいさつ

国家公務員共済組合連合会 名城病院長

伊藤 隆之

平成26年甲午の年頭に当たり皆様方にご挨拶申し上げます。本年が平和であり力強く駿馬のごとく歩みを進める年で、お一人お一人のご健勝と、幸せ多き年でありますことを祈念いたします。

名城病院はこの地で52年目の歩みを進めます。昨年9月には日本医療機能評価機構の審査を受けました。評価項目は患者中心の医療の推進、良質な医療の実践、理念達成に向けた組織運営でした。その後12月には新しい基準での病院機能評価の認定を取得しました。当院では5年毎3回目の審査になります。第三者の方の評価を受けることは医療の質、安全の向上のために意義深いと思って

います。

名城病院に奉職して3年目、休憩時に周囲を散歩し、古にはこの地にどのような方が住まわれていたのかを思いを巡らせ、江戸時代を振り返ってみます。

名古屋城は慶長15年(1610)徳川家康が西国諸侯の抑えとして築城し第9子義直の尾張藩62万石の居城としたことに始まります。関ヶ原の戦の後で当時の尾張の国の中心であった清洲城からより堅固な地を求め、那古野城跡：名古屋台地の北西端で数十戸の農村と若宮など寺社の散在するこの地を最適とし、外様大名による天下普請、清洲越しの大移動し、慶長13年(1608)より町割、数年

で6～7万人の城下町が丸ごと引越しています。名古屋開府当時の義直は9歳と若く、幕府よりお目付け役として附家老成瀬、竹腰氏が遣わされ藩政を補佐し、両家は共に九代幕末まで重責を担いました。成瀬家は3万5,000石で犬山城主、竹腰家は3万石でした。三の丸には上席家老の上屋敷を家康自らが屋敷割を行い、現在の名城病院の地には成瀬家、東隣の愛知県警察本部の地には竹腰家を配しました。本町御門から本丸へと続く両家の間は大名小路と呼ばれ大名行列と両家の構えが安政時代の図に偲ばれます。登城よろしく北上してみられると右方に二の丸石垣、西鉄御門(重要文化財)、正面に古木の桜並木が四季折々迎えてくれます。

本年も職員一同力を合わせ本院の理念であるより良い医療をより安全に提供できるよう誇りをもって邁進いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

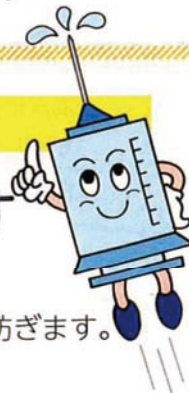


成人用肺炎球菌ワクチンの接種について

肺炎を防ぐために、予防接種があります

肺炎予防のためにできることのひとつに、予防接種があります。肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぎます。

※ただし、すべての肺炎を予防できるわけではありません。



腎・糖尿病内科とは

私が所属している科は腎糖尿病内科です。

字のとおりで腎臓病と糖尿病がくっついていますが、腎臓病と糖尿病は別々の疾患と思われがちですが、実は密接につながっているのです。腎臓の機能(即ち血液をろ過して尿をつくる機能のこと)が低下した病態を腎不全といいます。

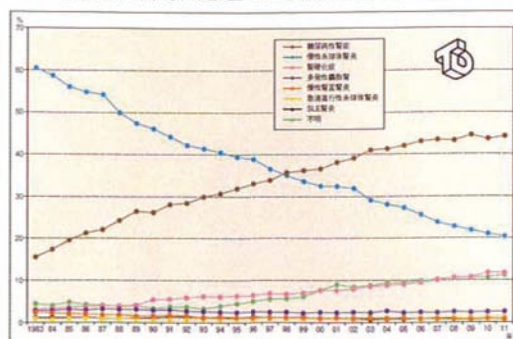
腎不全になりますと本来尿から出される毒素(尿毒素といいます)が体に溜まってしまい良くありません。そのため腎臓の代わりに尿毒素を除去する治療をしなければなりません。これを透析といいます。

現在日本では約30万人の透析患者さんがいます。(私が医者になった時は約7万人で実に25年間で4倍になっています。) そのうちの約4割近くが糖尿病由来なのです。即ち糖尿病を治療することが腎臓病を治療することになるのです。

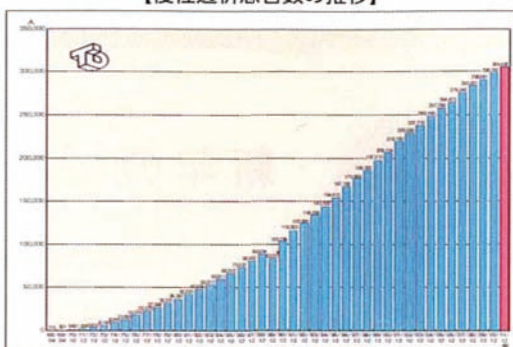
また、腎臓病と糖尿病の共通する点として、初期の段階では自覚症状がないことが挙げられます。腎臓病の場合、自覚症状が表れるのは腎不全の状態でも末期になってからで直ぐに透析になってしまいます。検査をしないと初期の段階で病気はみつきりません。

学校検診でよく尿検査をしたことを覚えていますでしょうか。この尿検査が腎臓病の検査でし

【年別透析導入患者の主要原疾患の推移】



【慢性透析患者数の推移】



て、腎臓に異常がある場合尿に異常がでできます。尿検査で異常が出た人にさらに詳しい検査をして疾患を確定していくのです。

成人になると必ずしも全ての人が検診を受けるわけではありません。そのため病気の発見が遅れることも少なくありません。一年に一度は尿検査をしましょう。

7階病棟紹介

7階病棟は単科病棟で脊椎・脊髄センターとして頸椎や腰椎の疾患、側彎症など検査を含め、手術を必要とする患者さんを数多く受け入れています。検査目的や手術、リハビリテーション・点滴等の目的で入院される患者さんで、48床の当病棟はいつも満床に近い状況で稼働しています。手術の件数も多く、週に10件以上もあり多い日は1日4件という事も少なくありません。

特に側彎症の手術は年間全国でもトップといわれるほどの件数で、患者さんは東海3県のみならず全国から予約して外来受診され、検査入院を経て手術を



受けられる方も多くみえます。

脊椎の術後はドレーン管が抜けると早期離床となり歩行器使用のリハビリから開始となります。病棟にも理学療法士が1名おり、リハ室だけではなく病棟でのリハビリも強化され少しでも早く回復されるように支援しています。また、疾患によっては長期の臥床が必要な患者さんや2回・3回に分けての手術をされる患者さんもみえ、精神的

な看護も必要となります。

7階病棟のモットーは、患者さんはもちろんですが、患者さんの家族ともコミュニケーションを大切にしながら、私たち看護師の笑顔と優しさを前面に出し、身体的なケアのみならず精神面での看護に努めています。今後も患者さんの入院生活において安心で安全な質の高い看護を目指していきたいと思ひます。

企
画
課

企
画
課
長
高
坂
利
一

ハンドベル クリスマスコンサート

昨年11月21日、当院1階ロビーにおいて、ハンドベルを演奏するアンベルズが少し早いクリスマスコンサートを行いました。アンベルズは名古屋で活動しており、今年で7回目の演奏会となります。優しい音色のハンドベルで「きよしこの夜」などが演奏されました。

そのハンドベルの優しい音色を聞いていると、どこかで聞いたこんなお話を思い出しました。外国のお話ですが「サンタクロースって本当にいるんでしょうか」と新聞社に投稿した8歳の少女がいました。その返

事は社説に載り「この世の中に愛や、人への思いやりや、真心があるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです」そしてこの世界でいちばん確かなこと、それは、子どもの目にも大人の目にも、見えないものなのです。夢と愛情をもらった少女は後に先生となり、長期入院の子どものための学校で副校長を務めたそうです。「見えないもの」を大切にするというクリスマスにふさわし



いお話と思いませんか。

コンサートの最後には、東日本大震災の復興応援ソング「花は咲く」をハンドベルの演奏に合わせて患者さん、スタッフの合唱を行い心安らぐ時間を共有することができました。これからも、患者さんのより良い環境づくりを行ってまいります。

共
済
医
学
会

外
来
主
任
看
護
師
山
田
美
穂

第62回共済医学会発表

外来の待ち時間短縮を試みて ～外来基本伝票の見直し～

昨年10月に第62回共済医学会が開催されました。全国の共済病院が一同に会し、各病院で行われた研究や改善が多数発表されます。今回私は当院の外来部門が行った「会計待ち時間短縮を目ざした活動」について発表を行いました。

当院では平成22年にオーダリングシステムが更新され、従来使用してきた外来基本伝票とオーダリングシステムに差異が生じ、会計係から各外来への問い合わせが増える事態が発生しました。問い合わせがあると、確認の間患者さんを窓口でお待たせする事になります。この事態を改善すべく、会計から各科への問い合わせ件

数とお待たせした時間を調査し、その原因を明らかにしました。

問い合わせの原因として多かった3項目を各科へポスターにして配布、周知を図りスタッフもこの点に注意して記入を行いました。

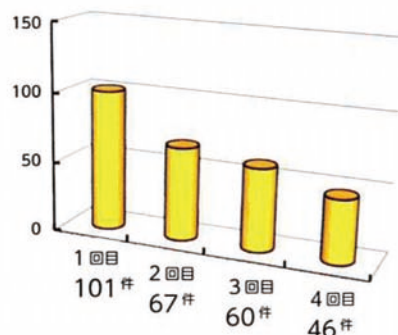
外来基本伝票は各科スタッフが検討し、医事課担当者が意見を集約、数度にわたる見直しを

行って完成させました。

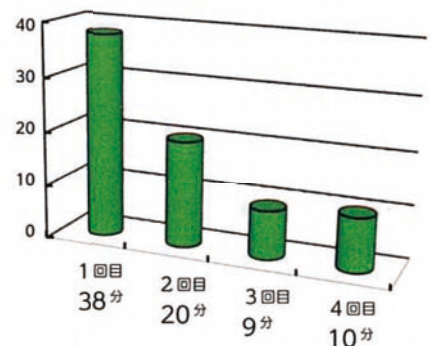
問い合わせ件数とお待たせした時間の調査は4回行われ、その都度各科に結果が伝えられました。その結果問い合わせ件数は約6割減少し患者さんをお待たせする時間も短縮されました。今回の活動で良い結果が得られたのは、運用の統一・周知を強化できた事と、全スタッフが協力して改善に取り組んだ事が要因だと考えます。

今後もこの結果を継続し、お待たせ時間の少ない対応が出来るよう外来スタッフ一同取り組んでいきたいと考えています。

【問い合わせ件数の推移】



【お待たせした時間/分（最長）】



総合健診センター

総合健診センター主任 楠目恵子

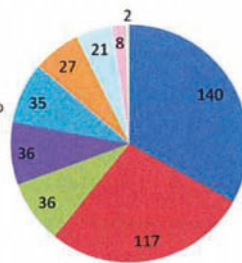
人間ドックにおける受診者の継続受診意志を検討するために、受診者を対象にアンケート調査を実施

当院の人間ドックは昭和57年から運営実施となり、2012年4月より総合健診センターと名称が変更になりました。通常の外来業務とドックを分離して行えず、各診療科の外来診療中に業務が狭まること、画像検査の枠の問題などから予約枠を増やすことができず、受診者数が伸び悩んでいるのが現状です。また、外来診療の状況によっては待ち時間が長くなる時があり、時折苦情の訴えがあることに心を痛めています。そこで、近隣には健診センターが数多くある中でなぜ、当院人間ドックを利用していただいているのか、受診者の継続受診意志に関連する要因を明らかにする為に受診者を対象にアンケート調査を行ったのでその一部を報告します。男性が多く年代では41～60歳の働きざかりの方が7割を占めていました。受診動機は、職場が当院と契約しているという方が全体の3割以上占め、2割以上の方が当日にわかる範囲の結果を知りたいという、ご意見要望があり健康状態の関心の高さが伺えます。今まで、他病院のドックを利用したことがありますかという質問に6割の方が、はいと回答があり、今後も当院の人間ドックを受けたいと思いますかという継続受診意志質問に対しては9割以上の方が「希望される」と高い回答が得ることができました。

今後、総合健診センター長を中心にスタッフ、各該当部署とより一層の連携検討を重ね名城病院人間ドックとして今のような「お・も・て・な・し」ができるのか研鑽していきたいと思えます。そしてお忙しい中アンケート調査にご協力していただきました人間ドック受診者の方々にお礼申し上げます。

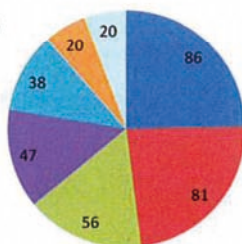
受診動機 (n=422回答複数可)

- 職場が当院と契約しているから
- 以前から当院のドックを利用しているため
- ドック項目が自分の希望に合致していたため
- 当院の外来にかかっているから
- 家族からの勧め
- 職場(上司)からの勧め
- その他
- 料金
- 医師からの勧め



ご意見、要望 (n=348回答複数可)

- 当日にわかる範囲の結果を知りたい
- 料金を安くしてほしい
- オプションを増やしてほしい
- 昼食をつけてほしい
- 時間をもっと短く
- 開始時間は遅いほうがよい
- その他



編集集



「こども達に夢と希望！」を届けに、熱き生き方プロジェクトがやってきた!!!
12月6日闘病中のお子さんと親御さんにちょっと早いクリスマスプレゼントとして、「シャチホコ王国の夢をかなえる像」をシンボルにクリスマスお楽しみ会が開催されました。こども達は「ひらけーえびふにゃー」の合言葉を元気に歌い、魔法の時間を体験することが出来ました。闘病中の思いもよらないプレゼントにいつまでも興奮が収まりませんでした。私たち大人も「こども達の笑顔」という最高のプレゼントを一足先にいただくことができました。
T・I

後記

名城病院診療等のご案内 <http://www.meijohosp.jp>

診療科目	内科・循環器科・小児科(小児循環器) 外科・整形外科・心臓血管外科・脳神経外科 皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科 歯科口腔外科・神経内科
------	---

診察受付時間	[新患受付] 午前 8:30～11:30 まで [再来受付] 午前 8:00～11:30 まで
面会時間	[一般] 午後 0:30～8:00 まで [新生児] 午後 0:30～8:00 まで (授乳時間を除く) [ICU] 午後 0:30～4:30 まで (家族のみ) 午後 5:00～8:00 まで

診療案内	[休診日] 土曜日・日曜日・祝日 年末年始(12月29日～1月3日)
所在地	〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1 TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318

お問合せは、
・ 午後の診療等、詳しくは、医事課まで (内線 2132)
・ 病診連携に関しては、病診連携室まで (内線 2151)
医療機関の方へ
・ 医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで (内線 5105)



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。